

漢字がわかるようになったら、漢字の成り立ちを教えていきます。そうすると漢字に対する興味がさらに大きくなります。

漢字はこういう具合に二つの字がくっついているということで説明します。たとえば「左」という字は、元の形は手の形で、この手の形に定規の形を表した工という字。定規を持つ手は左だから、手と定規を合わせて「左」になる といったように。

「右」は手に口という字で、口へ持っていく手は右手だよ、だからこれは右になるんだよ、というように教えます。

このような教え方をすると、それまで漢字が嫌いだったり苦手だった子どもも、興味を持ち始めるようになります。そうして知らないうちに、漢字を見てその成り立ちから推理する力もついていきます。子どもたちが、いかに楽しんで漢字学習ができるかということを考えてやるべきなのです。

よく、どんな教材を使ったらいいか、という質問を受けますが、本や教科書は使っても使わなくても、どちらでもいいです。漢字って面白いなあって思わせるような教え方をしましょう。

ポイント:漢字教育というのは、相手が多ければ多いほどいいのです。大勢の人から耳にすることで言語は豊かになりますので、母親とばかりやっているのでは発展がないわけです。お父さんも、そして同居していればお祖父ちゃんやお祖母ちゃんも、一緒に相手になってやれば子どもは喜びます。